

漢方薬のような効果

安倍晋三総理の訪米で、TPP（環太平洋連携協定）への交渉参加に政治が動き始めたようだ。まだ反対の意見を主張している与党議員も多くいるので、この先の動きには若干の不透明感はある。ただ、米国の大統領とあそこまで踏み込んで議論したのだから、日本はTPP交渉に参加するとみてよいだろう。

私はTPPを進めていくという立場ですと発言してきた。その中で、TPP交渉参加に反対の方々ともしろいろな所で議論してきた。ある新聞でTPP反対で主導

伊藤 元重

構造機関大教授
東大・研究
合長・理事
総理

的役割を果たしていた議員（当時
は民主党政権）の方と論争したこ
とがある。

この議員は、米国が入るTPP
に参加するよりも、拡大する中国
や韓国との経済連携協定の方が、
よほどメリットがある、と主張
した。TPPよりも日中韓の協
定の方がましだと思っただろ

TPP 早期交渉参加に期待

う。

今の日中関係の状況、アジア太
平洋における平和を維持するため
の米国の重要性を考えたら、とて
も同意できる発言ではない。ただ、
あえて経済的な面だけに絞って、
次のような発言をした。TPPの
効果は漢方薬のような面がある。

即効性でどれだけの効果があるの
かというよりも、中長期の視点で
TPPの持つ大きな意味を考える
べきだ、と。

この議員は私の議論を曲解し、
別の場で「伊藤は、TPPは漢方
薬のようだと言っていた」、とま
るで効果がないような発言をした
ようだ。漢方医が聞いたら怒るだ

う。

私が言いたかったことは、TP
Pに参加することのメリットは、
時間をかけて経済全体に広がって
いくものである。1年後、2年後
の変化だけを見るのではなく、日
本経済の将来の姿の中で考えてい
くべきである、ということだ。

経済利益は毎年10兆円

経済連携協定を結ぶこと、特に
質の高い自由化を求めるTPPに
参加することは、関税撤廃だけの
問題ではない。国内のいろいろな
制度を見直し、日本社会の真の改
革を目指すものだ。そうした効果
が1年や2年ですべて出てくると
いうものではない。

通商政策の評価についての著名
な研究者であるブランダイス大学
のペトリ教授などの研究による
と、TPPに加盟することで日本
の経済は成長拡大を続け、202
5年の時点までにはTPPに参加
しない場合に比べて、2・2%程
度の違いが出てくるという。

これは今の物価で評価して、お
およそ10兆円という規模である。

大変な経済利益である。これ以降
も毎年これだけの拡大効果が続く
ので、10年で100兆円という規
模になる。安倍内閣は成長戦略を
経済政策の重要な柱に据えている
が、TPPはまさにその中核とも
言える政策になるのだ。

ちなみに、TPPに加えてAS
EANや中国・韓国などが参加す
るRCEP（東アジア包括的経済
連携）にも日本が加盟すれば、両
方で3・8%の拡大効果が25年ま
でに出るといふ。これにも参加し
ない理由はない。

経済連携協定の効果は、時間を
かけて確実に、そして経済全体に
広がっていく。こうしたメリット
を一刻も早く確保するためにも、
早期のTPP交渉への参加表明を
期待したい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。